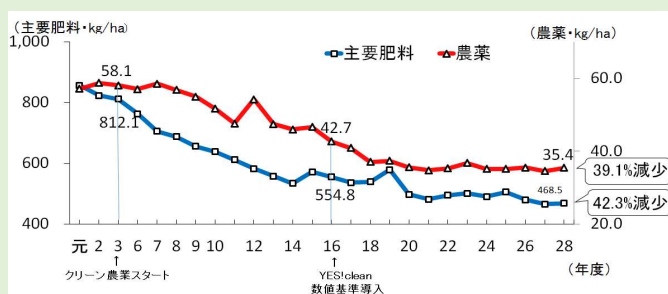


クリーン農業の取組状況

■ YES!clean登録生産集団数及び作付面積の推移



■ 北海道の単位面積当たり主要肥料及び農薬出荷量の推移



社会情勢や取り巻く環境の変化

- ・SDGsなど持続的社會づくりに対する関心の高まり
- ・気候変動による新規病害虫等の発生
- ・担い手の高齢化や減少と農業経営規模の拡大
- ・オリンピック・パラリンピック等を契機とした国際水準GAP導入の加速化
- ・農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律の施行

持続可能な 北海道農業・農村

施策の推進方針と展開方向

1 クリーン農業への理解の促進

- ・農業者や流通・販売業者、消費者に対して、クリーン農業の重要性を啓発
- ・農業体験、出前講座、農業者との交流など、親しみやすい方法で理解を促進
- ・北海道クリーン農業サポーター制度を創設

【北海道クリーン農業サポーター数】
(新設)
⇒ 3,000名 (R6(2024))

2 クリーン農業技術の開発と普及

- ◇ クリーン農業技術の開発
 - ・新規・特異発生病害虫対策など、安定したクリーン農業技術の開発と再構築
 - ・IPM技術などによる化学合成農薬の削減やセンシング技術の活用などによる化学肥料の削減、ICTなどによる省力化技術の開発
- ◇ クリーン農業技術の普及
 - ・農業者間の情報交換の促進や現地実証、栽培基準づくりなどへの支援
 - ・環境保全型農業直接支援交付金などの活用

【環境保全型農業の取組農家の割合】
51% (H27(2015))
⇒ 80% (R6(2024))

3 YES!clean農産物の拡大

- ・農業者への制度普及や技術支援による登録集団の増加
- ・消費者に対するPRや学校給食への利用促進、食育活動の推進
- ・流通・販売事業者への理解促進による安定した販路拡大の推進

【YES!clean作付面積】
17,734ha (H30(2018))
⇒ 20,000ha (R6(2024))

4 有機農業の拡大

- ・情報提供などによる慣行農法からの転換や新規参入、定着の促進、ネットワーク活動の推進
- ・安定的な販路確保のため、流通・販売事業者とのマッチングの促進
- ・PR販売や農作業体験など、消費者の理解の醸成

【有機農業取組面積】
4,064ha (H29(2017))
⇒ 6,500ha (R6(2024))

5 国際水準GAPの推進

- ・国際水準GAP導入に向けた気運の醸成
- ・地域の実情を踏まえたGAP導入促進に向けた支援体制の整備や指導者のレベルアップの促進

【国際水準GAP認証取得数】
234農場 (H30(2018))
⇒ 390農場 (R6(2024))